



国際交流支援事業について ～各地方自治体の取り組みについて～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

国際交流支援事業について

クレアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民などの幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、2022年度に助成を行った事業の中から、その取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が行われることを期待しています。

【対象事業】

- ・姉妹提携または友好提携に係る記念事業
- ・文化、芸術または研究に関する交流事業
- ・青少年交流に関する事業 ・国際会議に関する事業
- ・その他地域の特性を活かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であっても他の自治体や地域国際化協会のモデルとなるような、先駆的な事業であれば対象となります。

【対象団体】 都道府県、市区町村、地域国際化協会

【助成金額】

助成対象経費の1/2以内、上限は以下の金額
海外で行う事業…500万円 国内で行う事業…300万円

【国際交流支援事業掲載ホームページ】

<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

【お問い合わせ】 2024年度事業につきましては、8月ごろから募集を行う予定です。

交流支援部交流親善課

Tel : 03-5213-1723 Mail : koushin@clair.or.jp

そして、2023年3月、岩手県立沼宮内高等学校の生徒5名がアイルランドを訪問し、現地高校生との交流やアイルランド日本国大使館・アイルランドホッケー協会への表敬訪問を行いました。訪問したダブリン市マウントテンブル総合学校では、授業体験や和太鼓ワークショップのほか、放課後にはホッケーやサッカーをして親交を深めました。



在アイルランド日本国大使公邸訪問

また、3月中旬の訪問だったこともあり、本場のセントパトリックステーパーレードも体験することができました。本町高校生らは、英語での会話に苦戦しながらも、積極的にコミュニケーションをとっていました。さまざまな体験を通じて異文化を身近に感じることができ、充実した5日間の滞在となりました。

今後、今回訪問したマウントテンブル総合学校との定期的なオンライン交流から始め、交換留学やホームステイなど本格的な学校相互の交流を実施していきたいと考えています。町でも、これを足掛かりにアイルランド国内の自治体との姉妹都市連携の実現に向けて、草の根の交流を継続していきたいと考えております。

「英国庭園開園5周年・姉妹庭園覚書 締結5周年記念英国関係者招へい事業」

福島県本宮市

本宮市の英国庭園は、英国ロンドン市内ケンジントン&チェルシー王立区にある福島庭園と姉妹庭園の覚書を締結しています。

本宮市が英国と交流を始めるきっかけとなったのは、2015年2月28日のウィリアム王子（現皇太子）の来訪です。ウィリアム王子は東日本大震災からの復興の様子を視察され、子どもたちと一緒に遊び、イングリッシュオークを植樹されました。

「東京2020オリンピック競技大会 での事前キャンプを契機とした国際 交流事業」

岩手県岩手町

岩手町は、2019年に東京オリンピック競技大会のホストタウンに登録され、2021年にホッケー女子アイルランド代表チームの事前キャンプを受入れました。

これを契機に、ホッケー女子アイルランド代表チームとのオンライン交流やアイルランド音楽のコンサートなどを実施し、交流に向けた機運醸成を図ってきました。



ウィリアム王子の訪問で生まれた本宮市と英国とのつながりにより、ケンジントン&チェルシー王立区ホランドパークに造られた福島庭園の姉妹庭園として、本市は2017年に英国庭園を整備しました。英国庭園内には、ウィリアム王子の開園祝賀メッセージの記念碑をはじめ、イングリッシュローズや記念樹があり、英国との絆や震災からの復興を表す市のシンボルになっています。

2022年は、英国庭園が開園5周年を迎える年でした。この節目を祝う記念事業に、両庭園の開園や姉妹庭園覚書締結にご尽力いただいた、在英の「もとみや国際交流親善大使」や駐日英国大使、元駐英国特命全権大使の方々を本市にお迎えし、感謝の意を伝えるとともに、市民と交流を行いました。

英国関係者の皆様には、東日本大震災・原子力災害からの復興の状況をご覧いただき、本市の魅力を国内外に発信していただきました。



記念式典でのバルーンリリース

「ベトナムとの交流事業」 神奈川県

神奈川県内には、国籍別で見ると2番目に多い約2万9,000人のベトナム人が住んでおり、経済の面でも交流が活発になるなど、さまざまな分野でベトナムとの関係が深まっています。

こうした状況から、ベトナムとの交流をさらに促進するため、2015年から県内で「ベトナムフェスタ in 神奈川」を開催するとともに、2018年からはベトナムで「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI」を開催してきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年および2021年は開催することができませんでしたが、2022年には3年ぶりに双方で開催することができました。

ベトナム・ハノイでは、文化交流プログラムとして、浴衣の着付け体験や、ベトナムで人気の「よさこい」を日本チームとベトナムチームと一緒に披露するなどの交流を行いました。また、経済プログラムとして、県知事自ら神奈川の投資環境の紹介を行うとともに、参加した県内企業とベトナム政府や経済・企業関係者などのネットワークを目的とした交流会を開催しました。

また、2022年はベトナム・ダナンで初めて、若者交流プログラムとして、ベトナム現地の学生に対し、県内への留学や就労に関する



若者交流プログラムの様子

フォーラムを開催するとともに、県内の大学生とベトナムの大学生によるオンライン交流会も行いました。

こうしたイベントなどを契機に、神奈川県とベトナム両地域の将来にわたる継続的な成長や発展につなげていきたいと考えています。

「世界のチャタンチュ歓迎会」

沖縄県北谷町

北谷町では、沖縄県主催の「第7回世界のウチナーンチュ大会」に参加する世界のチャタンチュ（北谷町出身者）を対象に「世界のチャタンチュ歓迎会」を開催し、町民との交流の場を設け、絆を深めました。

本事業では、町内の歴史的な名所や観光地などを巡り、出身者のルーツやアイデンティティを辿るバスツアーを実施し、過去の写真を用いながら、移住前に過ごした北谷町の過去と現在の姿が比較できるような視察を行いました。

視察箇所の1つとして選定した、国登録有形文化財に指定された、沖縄の伝統的民家を再現した施設「北谷町うちなあ家」では、移住者が暮らした当時の生活様式についての説明や、沖縄の伝統的な染め物である「紅型」を施した「紅型衣装」での記念撮影が行われ、ルーツやアイデンティティについて再確認する場面が見られました。

また、「歓迎の夕べ」と題し歓迎会イベントを実施し、地元伝統芸能団体によるエイサーの演舞や民謡ライブなどが行われ、文化面での交流により、町民と共に楽しむ姿が見られました。

本町では今後の取り組みとして、個人レベルを含めた交流を続けていき、次回のウチナーンチュ大会へ招待することで、次世代へ続く国際交流思想の高揚を図っていきます。



世界のチャタンチュ歓迎会